

算数科学習指導案（略案）

平成23年2月4日（金）2校時
 小学部算数Aグループ 男子1人 女子3人 計4人
 場所 小学部 3組 教室
 指導者 柳元 香菜美（CT） 川添 直人（ST）

1 題材 「かずしらべをしよう（一対一対応）」

2 本時の実際（10/18）

(1) 全体目標

- 複数の盆に、物を一つずつ置くことができる。
- 一対一対応で物を置き、盆と物の数の同異に気付くことができる。

(2) 個人目標

| 児童 | 個人目標 |
|---------------|--|
| G児 (3年, 男) | ○ 枠を手掛かりに、物を一つずつ盆に置くことができる。 ○ 教師と一緒に、盆と物の数を同じにしたり、同じ数であることを写真カードで表現したりすることができる。 |
| I児 (6年, 女) | ○ 枠を手掛かりに、物を一つずつ盆に置くことができる。 ○ 過不足に応じて物を操作し、盆と物の数を同じにしたり、同じ数であることを教師と一緒に写真カードで表現したりすることができる。 |
| H児 (3年, 女) | ○ 一人で、複数の盆に物を一つずつ置くことができる。 ○ 盆と物の数の同異を言語や写真カードで表現することができる。 |
| R児 (4年, 女) | ○ 物を複数の盆に、左から順に一つずつ置くことができる。 ○ 盆と物の数の同異を言語や写真カードで表現し、違う場合には同じ数にすることができる。 |

(3) 指導及び支援に当たって

学習活動の概要と授業環境の工夫

児童はこれまでに、給食の配膳場面の設定で、盆と物とを一対一対応させる活動を通して、教師の支援を受けながら盆と物の数が同数である場合は、「同じ」と言語や写真カードで表現したり、盆と物に余りや不足があった場合には、「違う」と言葉や写真カードで表現したり、同じ数にしたりすることができるようになってきた。そこで本時は、「同じ」と「違う（余り・不足）」を一単位時間で取り扱い、様々な状況に応じて物を操作し、盆と物とを同じ数にすることができるようにしたい。

そのために、集団的な学習と個別的な学習を設定する。集団的な学習では、自分たちで道具の準備をすることで、これからすることに見通しや期待感をもったり、振り返りの時間を設定したりすることで、できたことを互いに確認したり、学習活動への達成感をもったりすることができるようにする。個別的な学習では、グループ編成を工夫し、児童の実態に応じた手順や方法で学習活動を進めることで、個人目標に迫ることができるようにする。

教材・教具とのかかわりについて

本時は、「すうじのうた」と「給食を配る」の構成である。「すうじのうた」では、枠のあるボードに、一つずつ順にカードを置いていくようにする。この活動を踏まえることで、「給食を配る」でも盆に一つずつ、順に物を置くことができるようになる。また、「給食を配る」では、実際の給食でも使っている盆等の道具を用いることで、実際場面を想起しながら一対一対応することができるようにする。

人（友達や教師）とのかかわりについて

個別的な学習では、友達の姿をモデルにしたり、教師や友達から即時的な称賛を受けたりすることができるよう、二人組に分かれて学習を行う。（以下、ペア学習とする。）その際は、課題の似たG児とI児、H児とR児の二人組に分かれ、友達の操作の補助をすることで、活動に集中して取り組んだり、同じ方法を使って課題に取り組むことで、お互いの姿をモデルにしたりすることができるようにする。

自分とのかかわりについて

「かかわる」の過程では、ケースの仕切を工夫し、入れる物の一つだけ入れることができるようにしたり、盆には、枠付きのシートを乗せることで、枠にはめ込んで正しく対応させていることを確認したり、過不足に気付いたりすることができるようにしたりし、操作が正しくできているのか、児童自身が確認できるようにする。また、「見つめる」の過程では、できたことを全員の前で確認し、称賛されることで「できた・わかった」を味わうことができるようにする。

(4) 実際

| | 主な学習活動 | 指導及び支援の手だて | 資料・準備 |
|---------------|---|--|--|
| 向かう (5分) | 1 始まりのあいさつをする。 2 本時の学習について知る。 <u>きゅうしょくをくばろう</u> | <ul style="list-style-type: none"> 教師や友達と一緒にあいさつをすることで、学習の始まりを意識することができるようにする。 「すうじのうた」を歌ったり、道具を提示したりして、学習活動に見通しをもつことができるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> 「おなじ」「ちがう」を意味する写真カード |
| かかわる (30分) | 3 「すうじのうた」に合わせて、カードを並べる。 4 給食を配る。 (1) 物をケースへ入れて配る準備をする。 (2) 教師の手本を見る。 (3) ペアに分かれて給食を配る。 ① 配るケースを選ぶ。 ② 盆の上に置く。 (G児とI児) ③ 盆と物の数を同じにする。 ④ 同じ数であることを写真カードで表現する (H児とR児) ③ 盆と物の数の同異を音声言語や写真カードで表現する。 ④ 盆と物の数を同じにする。 | <ul style="list-style-type: none"> 児童が一人前に出て、パネルシアターの操作を行う。ほかの児童は、机上のボードで操作を行うようにする。 操作が終わったら、パネルシアターを使って、答え合わせをする。 ケースに物の写真をはり、どの物を入れるのか分かりやすくするとともに、仕切を付け、枠の中に物を一つずつ入れることができるようにする。いろいろな数のケースを準備し、ペア学習で使うようにする。 物の数が違う場合には、箱へ物を戻したり、箱から物を取り出したりして同じ数にすることで、これからの学習活動に見通しをもったり、前時までの活動を思い出したりすることができるようにする。 G児とI児(CT)、H児とR児(ST)の2グループに分かれる。 どちらのペアとも、盆に枠のかかれたシートを使い、置く場所が分かるようにしたり、過不足に気付いたりすることができるようにする。 G児とI児ペアの活動では、過不足がある場合は教師が「違うね。」と言葉を添えるようにする。 H児とR児のペアの活動で、過不足に気付かない場合には、友達が同じ操作をしたり、教師が「違うね。」と言葉を掛けたりして、違いに気付くことができるようにする。 時間内はペアで交互に操作をし、繰り返し学習活動に取り組むことができるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> パネルシアター 「すうじのうた」カード ボード 仕切のあるケース数種類 牛乳やスプーンなど配る物 箱 盆 枠付きのシート 写真カード(「同じ」「違う」) 配る物が入った箱 |
| 見つめる (10分) | 5 振り返りをする。 6 終わりのあいさつをする。 | <ul style="list-style-type: none"> ペア学習で取り組んだことを前で実際に操作して、発表をする。 教師や友達と一緒にあいさつをすることで、学習の終わりを意識することができるようにする。 | |

(5) 評価

- 複数の盆に、物を一つずつ置くことができたか。
- 一対一対応で物を置き、盆と物の数の同異に気付くことができたか。